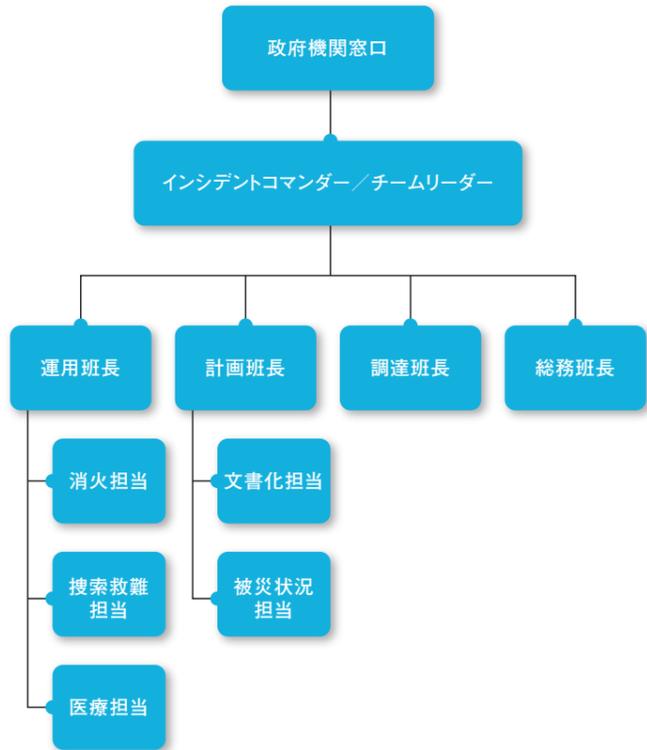


図表1 CERTの基本組織



その上で、地域や職場での死傷や物損を減らすため、協働して事前に計画を立てる。

災害への備えを地域で行うことで、個人や地域が非常時に必要とするものを減らし、専門家の支援が受けられるようになるまで手元にある資源をうまく使う能力を強化できる。

災害に対する事前の対応計画と訓練が、協働する集団の活動をより効果的なものにするのが、被災後の行動に関する研究で明らかにされている。

これらの研究では、組織化された草の根の努力が、自治会、学校、職場、

宗教施設、およびその他の組織といった、地域社会の社会的・政治的な紐帯の中に織り込まれるとよりうまく行きやすいことも示されている。

従って、効果的な対応のためには、行政、ボランティア集団、企業、学校、そして地域社会の組織など全ての関係者による包括的な計画と連携が必要である。個人および地域の集団は、訓練を受け情報を得ることで、重要資源の提供者として、被災直後に必要となる緊急時機能の多くを担えるようになる。

CERTプログラムは、個人を訓練

すること、地域社会の効果的な災害対応を支援する。

**3 災害に襲われた時**

地震、ハリケーン、竜巻、洪水といった自然災害や、爆発や危険物事故といった人的・技術的な事象がもたらす被害は、行政サービスから企業活動そして市民活動まで、コミュニティのあらゆる面に次のような影響を及ぼす。

- 対応資源、通信、輸送、公共施設を著しく制約するか、完全に損なう。
- 多くの個人や地域が、外部の支援から隔絶されてしまう。
- 道路の損傷や通信システム障害は、被害の極めて大きい地域に緊急対応機関が入っていく際の制約となる。従って、被災直後、つまり通常3日間ないしそれ以上、個人、家庭、地域は、
- 食糧
- 水
- 救急
- 避難所

を自前の資源に頼る必要がある。

被災直後に重要なのは、個人の備え、事前の計画、生存スキル、そして地域や職場での相互援助である。つまり、今からその準備をしているかどうか、自らの生存および他人を安全かつ効果

次第に認識されてきている。

「シチズンコープ」の所管官庁は国土安全保障省(DHS)内のFEMAであるが、その実践主体は各地域社会となる。地域社会の指導者と行政の間に効果的な協力関係を構築するため、全国の地域社会に「シチズンコープ委員会」が創設された。その目的は次のようなものであった。

- 協働的な地域計画と対応能力の拡大に、地域社会全体で取り組むこと
- 地域の資源を集約すること
- 地域特性を踏まえた災害対応訓練を展開すること
- 全階層の住民に緊急伝達ができるようにすること
- 訓練と演習を実施すること
- ボランティア活用制度を作ること

**2 CERT**

災害に対する地域社会の安全と事前準備、そして迅速な復旧の取り組みに全てのアメリカ人を巻き込むための重要なプログラムがCERTである。

地域社会を基盤に災害への備えを計画することで、災害発生後に予想される障害や潜在的な危険への対応が可能となる。

まず個人は、各家庭・家族で、外部からの援助を得にくい被災直後の期間に対処できるよう備えておく。

的に助ける能力の質に決定的に影響する。

- 地域に特徴的な災害や地域の計画と規則を学ぶこと
- 災害別の防護行動と対処法を理解すること
- 重要な緊急物資を集めておくこと
- 家庭内の潜在的な危機の芽を摘み取ること

このような事前の取り組みにより、あらゆる災害に対する対応復旧能力が高められる。家族、地域、そして地域社会の人々にとって、個人は重要な資産となる。

**4 「CERT基礎訓練」について**

緊急事態への対応は、できるなら、よく訓練され装備も整った緊急対応要員が行うのが望ましい。しかし大災害後は、被災地域の規模や通信途絶の状況、そして道路の閉塞によって、一定期間、個人や地域社会が自ら対処しなければならぬかもしれない。

「CERT基礎訓練」は、受講者が大災害の後に自らを守り他の人を助けられるようになるよう設計されている。緊急対応要員は全員を即時に助けることができないので、CERT訓練の受講者が救命や財産保護に力を発揮する

# コミュニティ・エマージェンシー・レスポンス・チーム(CERT) 概要

一般社団法人レジリエンス協会代表理事  
一般財団法人リスクマネジメント協会評議員 **黄野 吉博**  
一般社団法人レジリエンス協会 **白澤 健志**



これまで紹介してきた通り、米国の災害対応機能は国家レベルで整備されている。しかし、被災直後など、救援機関等による公助が十分に期待できない場面もある。従って、個人や地域の自助的努力の有無や程度により、地域社会の災害への初期対応力は大きく左右されることになる。そのため、全米各地では、地域社会レベルで「コミュニティ・エマージェンシー・レスポンス・チーム(CERT)」が組織され、地域社会の初期対応能力の向上を図っている。今回は、そのCERTについて、メンバー養成のための訓練資料の記述をベースにして紹介する。

## 1 設立の経緯

コミュニティ・エマージェンシー・レスポンス・チーム(CERT)の概念は、1985年、ロサンゼルス市消防局(LAFD)によって開発・実践された。その背景には、「地震などの破滅的な大災害の直後には、市民は自ら災害に対処しなければならない」という認識があった。

LAFDは、災害時の生存・救援のスキルに関する基礎訓練を市民に施すことで、災害対応要員やその他の支援要員が到着するまでの間、市民が自ら

## 2 災害に対する地域社会の備え

2001年9月11日の米国同時多発テロを受け、地域社会の安全と災害への備えを強化するために市民参加を促す草の根戦略として「シチズンコープ」が立ち上げられた。

以後、災害への対応と復旧を成功させるための決定的要素として、災害への備えに関する教育、訓練、そして地域社会全体を巻き込むことの重要性が

## 3 シチズンコープ

2001年9月11日の米国同時多発テロを受け、地域社会の安全と災害への備えを強化するために市民参加を促す草の根戦略として「シチズンコープ」が立ち上げられた。

以後、災害への対応と復旧を成功させるための決定的要素として、災害への備えに関する教育、訓練、そして地域社会全体を巻き込むことの重要性が

図表3 コースのアジェンダ

1 災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と概要</li> <li>● 地域社会の備え:役割と責任</li> <li>● 危険性とその潜在的影響度</li> <li>● インフラへの影響度</li> <li>● 家庭と職場の備え</li> <li>● 危険性の緩和による影響度の低下</li> <li>● CERTの災害対応</li> <li>● 災害対応労働者の防護</li> <li>● CERTの追加訓練</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
2 火災安全と公共設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● 火災の化学</li> <li>● 火災と公共設備の危険性</li> <li>● CERTの規模拡大</li> <li>● 火災の規模拡大における考慮点</li> <li>● 消火の資源</li> <li>● 消火の安全性</li> <li>● 危険物</li> <li>● 演習:小さい火を消す</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
3 災害医療運用 第一部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● 生命に関わる状態の治療</li> <li>● トリアージ</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
4 災害医療運用 第二部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● 公衆衛生における考慮点</li> <li>● 災害医療運用の機能</li> <li>● 医療地域の設定</li> <li>● 全身診察の実施</li> <li>● 火傷の治療</li> <li>● 切傷の処置</li> <li>● 骨折、脱臼、捻挫、筋挫傷</li> <li>● 鼻の負傷</li> <li>● 寒さに関連した負傷の治療</li> <li>● 熱さに関連した負傷の治療</li> <li>● 咬傷と刺傷</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
5 簡易な搜索救難運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● 搜索救難における安全</li> <li>● 室内および野外の搜索運用の実施</li> <li>● 救難運用の実施</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
6 CERTの組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● CERTの組織</li> <li>● CERTの発動</li> <li>● 文書化</li> <li>● 活動:ICSの機能</li> <li>● 活動:卓上演習</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
7 災害の心理学	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● 災害のトラウマ</li> <li>● チームの健康</li> <li>● トラウマへの対処</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
8 テロリズムとCERT	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● テロリズムとはなにか</li> <li>● テロリストの標的</li> <li>● テロリストの武器</li> <li>● CBRNEの指標</li> <li>● 家庭、職場、地域の備え</li> <li>● CERTとテロリズム被害</li> <li>● 活動:テロリストによる疑いがある被害へのCERT原則の適用</li> <li>● 単元のまとめ</li> </ul>
9 コースの振り返り、最終試験・災害の模擬	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 導入と単元概要</li> <li>● コースの振り返り</li> <li>● 最終試験</li> <li>● 災害の模擬</li> <li>● 演習の講評とまとめ</li> </ul>

ったニーズへの対応に必要な基礎スキルを本コース修了者に付与することである。CERTメンバーは、本コースの基礎スキルを使って救命と財産保護を協働支援できる。本コースの想定する対象者は、災害に備え、また対応す

るために必要な技術と知識を身に付けたい個人である。

**1 全般的なコースの目的**  
本コースの修了者は図表2に挙げる項目のことができるようになる。

また、これらコース全体の目的に加え、個々の単元に個別の目的がある。

**2 コースのアジェンダ**  
コースのアジェンダは図表3の通りとなる。

CERT基礎訓練コースの修了者は修了証が発行される。地域社会からも、災害対応時の緊急対応チームのメンバーとして認定する追加文書が渡される。

ゴグルや手袋、基本的な救急用品といったCERTの安全装備を維持し、災害時に使えるようにしておく。

災害対応の訓練は一度だけ経験すればいいというものではない。災害に直面した時に効果的な対応を取るのに必要な優位性を維持するためには、フォローアップ訓練と反復練習を通じて、気づき、コミットメント、そしてスキルを補強しなければならない。

**7 CERT基礎訓練の修了後**

スキルレベルを維持し能力を継続的に向上させるために、CERTメンバーとそのチームは、地域で継続的に実施される補完訓練に参加しなければならない。災害シナリオを他のチームと実践する練習は拡張訓練の機会だけでなく、地域の他のチームと価値あるネットワークを作るための良い機会でもある。

◆ 次回は、CERTの個別災害項目の例として、地震編を紹介する。

**5 CERTの運用方法**

この訓練は、緊急援助が受けられない災害時に知っておくべき、重要な基礎スキルをカバーしている。訓練と練習、そしてチームとして動くことで、災害後も自らを守り、また多くの人に望ましい支援を行える。

各CERTは、スポンサーとなる機関が策定した標準運用手順に基づいて組織され、訓練される。メンバーは、インシデントコマンダー/チームリーダー(IC/TL)とその代行者を選出し、災害時の集合場所やステージングエリアを決める。(図表1)

ステージングエリアは、消防などの業務がCERTと相互に関わる場所である。連絡所を集中配置することで、被害査定との連絡と、ボランティア要員の効果的な配置ができる。これは、地域、職場、学校、その他の場所で活動するすべてのCERTにあてはまる。

災害による被害は場所によって大きく異なる。実際の災害では、ニーズが確認され次第、順次CERTを展開していく。メンバーは、まず自らと周囲の身近な人のニーズを最初に査定するように教えられている。

**図表2 CERT基礎訓練修了者ができること**

1	家庭、職場、地域にもっとも影響しそうな危険の種類を説明すること。
2	自らと家族が段階を追って災害に備えること。
3	初動対応におけるCERTの機能と役割を説明すること。
4	家庭、職場、地域における潜在的な火事の危険性を特定し、減らすこと。
5	フライパン火災を消すための基本的な方策、資源、そして安全対策をチームで実践すること。
6	気道を確保し、過度の出血を止め、ショックを和らげるための技法を適用すること。
7	疑似災害状態でトリアージを行うこと。
8	患者の全身を診断すること。
9	治療区域を選定し調えること。
10	様々な負傷に基礎的な処置を施すこと。骨折や捻挫が疑われる時は添木を当てること。
11	潜在的な搜索救難の事態に備え、計画策定と規模拡大の要求事項を特定すること。
12	ある構造物を搜索するためのもっとも一般的な技法を説明すること。
13	瓦礫除去と遺体搬出を安全に行う技法をチームで実践すること。
14	搜索救難活動中の救急者を守る方法を説明すること。
15	災害後に湧き起こる感情と、救急隊員および生存者が自らのストレスを軽減するための方法を説明すること。
16	CERTの組織と文書の要求事項を説明すること。

身近にニーズを確認できなかったCERTメンバーは、ステージングエリアに申告することで、地域全体のニーズに基づいて役割を割り当てられる。被害の大きい地域にいるメンバーはステージングエリアに使者を送り、利用可能な資源の援助を得る。通信能力の増強と連携強化のため、アマチュア無線やその他の無線通信を利用することもある。

CERTプログラムによって効果的な初動対応をする能力が涵養される。

まず個人として行動し、次にチームのメンバーとして行動することで、訓練されたCERTボランティアを割り当て地域内に展開し、次のような行為が可能となる。

- 小規模な火事を消す
- 倒壊した家のガスを止める
- 簡易な搜索救難を行う
- 基礎的な医療措置を施す

CERTはまた、情報の得られない緊急対応者に対し、効果的な「目と耳」の役割を果たすこともできる。

**6 コースの概要と目的**

訓練されたボランティアは、潜在的対応要員として、避難所の支援や群衆の統制、そして避難といった、危険のない機能の発揮を通じて組織に貢献できる。

「CERT基礎訓練」の目的は、被災直後で緊急対応要員の援助がすぐに受けられないのために、地域の差し迫